

国語 第2学年 かんそうをつたえ合おう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、がまくんとかえるくんの行動を確かめ、自分の経験と結び付けて感想をもつ。登場人物への好き嫌いにとどめず、待つことや相手を思うことをどの行動から感じたかを伝える。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「かんそうをつたえ合おう」 教材名 「お手紙」

2 単元の目標

誰の行動を述べた文かを確かめ、主語と述語の関係に気付ける。人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合える。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①誰の行動を述べた文かを確かめ、主語と述語の関係に気付いている。〔知識及び技能〕(1)カ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っている。(C(1)オ・C(1)カ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

がまくんとかえるくんの行動を確かめ、自分の経験と結び付けて感想をもつ。登場人物への好き嫌いにとどめず、待つことや相手を思うことをどの行動から感じたかを伝える。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)カを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

誰が何をしたかを主語と述語で確かめる。「物語での行動」と「自分の経験」を分けて書き、似ている点か違う点を説明する。手紙を受け取った経験がない場合は何かを待った経験でよい。おおむね満足できる状況は、人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全12時間)

第1次 第1～2時：○全文を読み、人物と起こった出来事を確かめる。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第3～4時：○二人の行動を場面ごとに読み、誰が何をしたかを文で確かめる。評価：知①(語句や内容の整理)

第2次 第5～6時：○待っている場面と前の場面を比べ、印象に残った行動を選ぶ。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第7時：○選んだ行動と自分の経験を結び付けて感想を考える。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第8時(本時)：○場面と経験の関係を添えて感想を伝え合う。評価：思①(発言・学習記録)

第2次 第9～10時：○友達の感想を聞いて読み直し、自分の感想カードを書く。評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第11～12時：○カードを交流し、読んで感じたことの広がり振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（8／12）

（1）本時の目標

人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合える。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」

【めあて】がまくんとかえるくんの行動を確認、自分の経験と結び付けて感想をもつ。

予想される児童の反応：・待つ時間の感じ方は、何を待っているかで変わりそうだ。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・待つ時間の感じ方は、何を待っているかで変わりそうだ。

・相手のために行動するところが印象に残る。

・同じ場面でも友達とは思いついたことが異なる。

指導上の留意点：誰が何をしたかを主語と述語で確かめる。「物語での行動」と「自分の経験」を分けて書き、似ている点か違う点を説明する。手紙を受け取った経験がない場合は何かを待った経験でよい。

想定する難しさ：自分の経験を長く話し本文の行動と結び付かない。主語が省かれた文で人物を取り違える。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っている。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・同じ場面でも友達とは思いついたことが異なる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

